

医薬品適正使用に関する調査 一下剤一

毎田千恵子*, 斉藤和幸*, 山根麻衣*, 脇屋義文*,
宮本悦子*, 林 誠**, 阿部康治**, 相宮光二**

Investigation concerning proper use for medicine -Laxatives -

Chieko Maida *, Kazuyuki Saito *, Mai Yamane *, Yoshifumi Wakiya *,
Etsuko Miyamoto *, Makoto Hayashi **, Koji Abe **, Koji Aimiya **

Received November 2, 2009

Abstract

Symptoms which accompany constipation may include intestinal discomfort, loss of appetite, bloating of the stomach as well as headache and nausea. It is believed that this common malady is generally treated by the affected with "over the counter" (OTC) self medication. It is also thought that patients receiving prescription medicines for constipation will self adjust medicine levels according to need and circumstance. In order to grasp more clearly the current use of constipation medicines, a survey was performed which examined the extent of self-medication and the level of the self-adjustment of prescribed laxatives. Given these results, this paper examines instructions and explanations that would facilitate the proper use of these laxatives.

The questionnaire was made available to individuals who had just completed a medical check-up. 75% of respondents stated that they would initially attempt to influence bowel movement through the adjustment of food intake and drinking water, exercise, etc., before resorting to medication. More than 30% of respondents either did not know the name of the laxative they were taking or did not take the laxative with a sufficient amount of water. Given these results a proper explanation for the ingestion of laxative medicines was established to meet the needs of constipation sufferers when considering the context of a patient's illness and daily habits.

* 薬学部
Faculty of Pharmaceutical Sciences

** 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
National Hospital Organization Kanazawa Medical Hospital

【緒言】

便秘症は腹部膨満感, 食欲不振, 腹痛等の直接的症状の他に, 頭痛, 吐気など日常生活に影響をきたす疾患のひとつであることから, 便秘に対する適切な治療は重要である。しかし, 直接生命にかかわる疾患ではないと考えられているため, 一般薬を用いた患者自身によるいわゆるセルフメディケーションが治療の主体となっている^{1,2)}。また, 医療機関を受診し, 医師の処方による薬物治療を実施している場合でも, その服薬において, 患者自身による自己調整が行われている。

そこで今回, 便秘に関するアンケート調査を実施することにより, 下剤使用の現状を把握し, 適正で効果的な下剤の使用方法及び服薬指導方法について検討した。

【アンケート調査方法】

アンケート調査は独立行政法人国立病院機構金沢医療センター (以下, 金沢医療センター) で実施した。

1. 倫理委員会への申請

アンケート調査を実施するにあたり, 金沢医療センター倫理審査委員会の審査に倫理審査申請書, 研究計画書, アンケート調査に関する同意説明書, 協力依頼書の資料を提出し, 申請した。

2. 実施方法

アンケート調査は, 平成19年8月1日から8月8日までの6日間実施し, 調査時間は午前9時から11時30分までの2時間30分とした。対象者は, 金沢医療センターの外来診療終了患者とし, 院外処方せん相談コーナー来訪者, あるいは支払い待ちの患者に対し, 「アンケート調査に関する説明書」を用いて, 個々の患者に調査目的を説明し, 同意を得られた患者に対して無記名方式で実施した。記載は原則として患者本人としたが, 患者が希望する場合は, 調査者が代筆した。

書類一式: アンケート調査に関する説明文書 (表1), アンケート調査に関する同意書 (表2, 3) アンケート票 (表4)

表1 アンケート調査に関する説明文書

アンケート調査に関する同意説明書

研究課題名：
医薬品の適正使用に関する調査研究 一下剤一

目的：
現状を把握するため、外来患者様の下剤の使用と便秘について調査させていただきます。また、生活習慣、運動習慣、健康食品の摂取などについても調査し、これらが便秘にどのような影響があるのかを検討いたします。

方法：
アンケートに対する説明をさせていただき、同意をいただいた患者様にアンケートを記入していただきます。なお、アンケートの記載には時間がかかる場合がございますが、ご了承ください。

結果の利用：
アンケート調査の結果は卒業論文に使用いたします。

個人情報の保護：
このアンケートは無記名で行います。したがって個人が特定できる情報は調査いたしません。

アンケートにご協力いただける場合は、別途同意書にご署名をお願いします。
なお、アンケートにご協力いただけない場合でも、患者様の診療等には何の影響もございません。
また、同意いただいた後でも、患者様の自由同意で同意を撤回することができます。もちろん、この場合にも患者様の診療等には何の影響もございません。

金沢医療センター 薬剤科
北陸大学 薬学部 臨床薬学教室

表2 アンケート調査に関する同意書 (患者用)

(患者様用)

アンケート調査に関する同意書

独立行政法人国立病院機構
金沢医療センター長 殿

今回便秘に関するアンケート調査に回答するにあたり、下記の事項について説明を受け、理解した上で、自由意志により、アンケートを記載することに同意します。

<項目>
1. アンケート調査の目的
2. アンケート調査の実施方法
3. アンケート調査結果の利用方法
4. 個人情報については調査しないこと
5. 同意しない場合でも不利益を被らないこと
6. 同意はいつでも自由に撤回できること

同意年月日 平成 年 月 日

ご本人氏名 _____
(代諾者が必要な場合には、以下にご記載ください。)

代諾者氏名 _____

説明年月日 平成 年 月 日

説明者氏名 _____

表3 アンケート調査に関する同意書 (薬剤科用)

(薬剤科用)

アンケート調査に関する同意書

独立行政法人国立病院機構
金沢医療センター長 殿

今回便秘に関するアンケート調査に回答するにあたり、下記の事項について説明を受け、理解した上で、自由意志により、アンケートを記載することに同意します。

<項目>
1. アンケート調査の目的
2. アンケート調査の実施方法
3. アンケート調査結果の利用方法
4. 個人情報については調査しないこと
5. 同意しない場合でも不利益を被らないこと
6. 同意はいつでも自由に撤回できること

同意年月日 平成 年 月 日

ご本人氏名 _____
(代諾者が必要な場合には、以下にご記載ください。)

代諾者氏名 _____

説明年月日 平成 年 月 日

説明者氏名 _____

表4 アンケート票

便秘についてのアンケートにご協力ください

Q1 あなたのことについて教えてください
性別 男性 女性 年齢 【 歳】

Q2 あなたの日常生活について当てはまるものを教えてください。(いくつでも可)
朝食を食べない 少食 野菜はあまり食べない
水分はあまりとらない 油物はとらない 入れ歯があていない
ほとんど歩かない 睡眠時間が不規則 ストレスを感じる
トイレに行くことを我慢することがある

Q3 あなたのお通じについて教えてください
順調 どちらかという順調
どちらかと言うと順調ではない 順調ではない

Q4 お通じは何日に何回ありますか。【 日 回】

Q5 排便をする時、引きむと痛みを感じることはありますか。
はい いいえ

Q6 あなたの理想的なお通じは何日に何回ですか。【 日 回】

Q7 便秘気味だと感じることがありますか。 はい いいえ
「はい」と答えた方は、便秘の周期はどれくらいですか。
いつも 時々 ()
便秘と下痢が交互 その他 ()

Q8 便秘になった時、あらわれる症状はありますか。
特になし 吐き気 食欲がなくなる
腹痛 お腹の張り 排便感
その他 (具体的に)

Q9 便秘時、改善のためにどのようなことをしていますか。(いくつでも可)
病院で薬をもらう 薬局で薬を買う
ご飯をしっかり食べるようにしている 野菜や果物を多くするようにしている
おなかをマッサージしている
ストレスを感じないようにリラックスするように心がけている
水分を多くとるようにしている 睡眠を十分とるようにしている
便秘を感じたらすぐにトイレに行くようにしている
健康食品をつかって (名前)
時にもしらない その他 (具体的に)

【Q9】で、「病院で薬をもらう」「薬局で薬を買う」の項目に該当する人は、以降の質問にお答えください。それ以外の人はこれで終了です。

Q10 便秘になったとき、どのように下剤を使いますか。
便秘になった時だけ飲む 便の状態をみて、量を調節している
常時同じ量を飲んでいる
常時飲み下痢になったら一旦中止し、下痢が治ってから再び飲み始める
下剤を飲んでいない その他 ()

Q11 下剤を使用している方は、今飲んでいる下剤についてその名前を教えてください。
【 名前が分からない場合は、「白い粉末」「赤い錠剤」等書いてください。】

Q12 薬の説明をうけ、理解して薬を飲んでいますか。 はい いいえ

Q13 今の下剤に満足していますか。
満足 どちらかと言えば満足 どちらかと言えば不満 不満

Q14 下剤に満足していない方は、どのような点に不満を感じますか。(いくつでも可)
便通が改善しない 便秘と下痢を繰り返す 排便感がある
飲む薬の量が多くて、必要な量を飲まないことがある 飲むと体調が悪くなる
その他 (具体的に)

Q15 下剤をどのように飲みますか。
コップ1杯以上の水 コップ1杯より少ない水 その他 (具体的に)

アンケートへのご協力ありがとうございました
金沢医療センター 薬剤科 北陸大学 薬学部 臨床薬学教室

3. 調査内容

アンケートの設問は、排便状況について7項目、服用している下剤について6項目、生活習慣について1項目の14項目とした。

4. 結果の取り扱い

得られた結果を北陸大学臨床薬学教室（現医療薬学教育センター）において集計し、データを解析した。なお、データ解析後、アンケート用紙は金沢医療センターに送付し、廃棄処分とした。

【結果】

(1) 患者背景

209名の患者から回答を得、男女比およそ1：1、平均年齢62.7歳、50～70歳代が全体の75%を占めた（図1、2）。

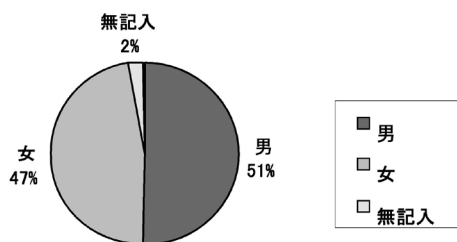


図1 性別

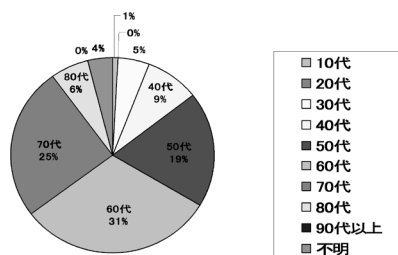


図2 年齢

(2) 日常生活（複数回答可）

日常生活において最も多くチェックされた項目は、「ストレスを感じる」の62名であり、次いで「ほとんど歩かない」が48名、「睡眠時間が不規則」が45名、「少食」が42名であった。逆に「入れ歯があていない」が8名、「朝食をあまりとらない」が10名、「水分をあまりとらない」が19名であり、調査対象が50～70歳代であったことを反映した結果であると考えられる（図3）。

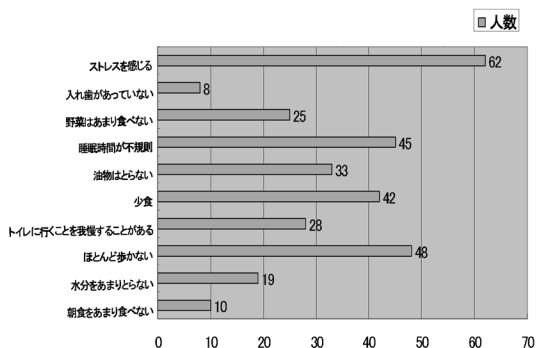


図3 日常生活について（複数回答可）

(3) 便通の状況

50%の患者は排便が「順調」であると回答しており、「どちらかといえば順調」と回答した患者を合わせると78%の患者が便通に不都合を感じていなかった(図4)。

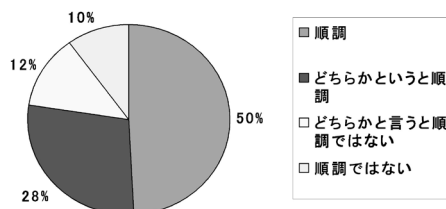


図4 排便状況

また、排便回数の調査結果では、「1日1回」の患者が54%と半数を超えていた(図5)。さらに、患者個人が考えている理想的な排便回数については、「1日1回」が77%であった(図6)。

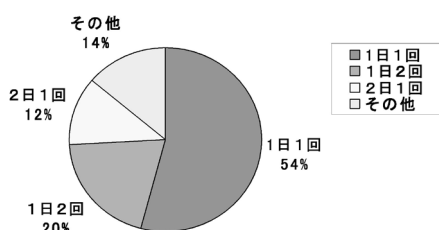


図5 実際の排便回数

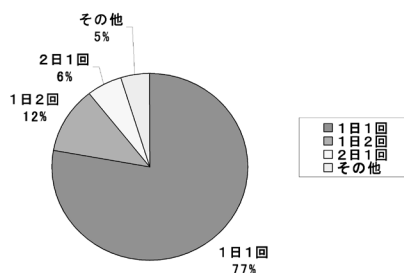


図6 理想的な排便回数

(4) 排便の満足度

そこで、患者の排便に関する満足度を調査したところ、34%の患者が便秘気味と感じており、実際の排便回数が患者自身の考える理想的な排便回数とある程度整合しているにもかかわらず、必ずしも満足しているものではないと考えられた(図7)。

なお、便秘時に現れる症状としては、「特になし」の患者が37%と最も多かった。次いで「おなかの張り」を感じる人が28%であり、症状の中では最も多い回答であった(図8)。

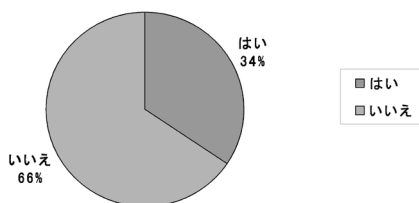


図7 便秘気味とを感じるかどうか

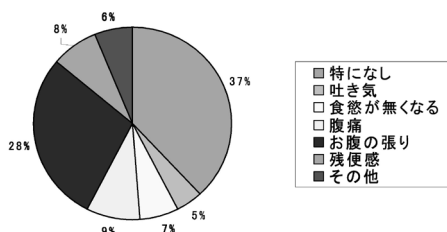


図8 便秘時に現れる諸症状

(5) 便秘の改善方法 (複数回答可)

便秘をコントロールするために何かアクションを行うと回答した患者は91.3%であり, 最も多かったものは, 「水分を多く取る」で115名, 次いで「野菜や果物を多く取る」が93名, 「便意を感じたらすぐトイレに行く」が72名であった。

一方, 「病院で薬をもらう」は45名, 「薬局で薬を買う」は9名であり, 全体の約75%の患者が便秘を感じても, まずは薬に頼らず, 食品等の摂取, 水分補給などで対応していた (図9)。

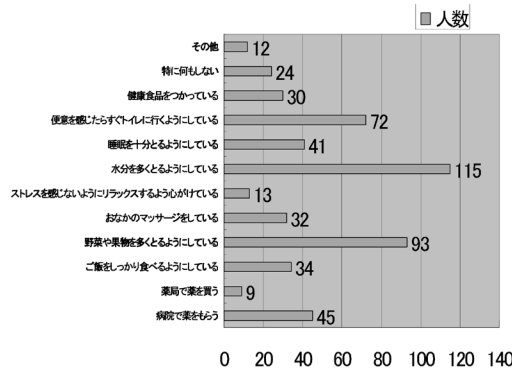


図9 便秘の改善方法

(6) 下剤の使用

「便秘時に下剤を使用している」と回答した54名のうち40名から具体的な使用方法が回答された (図10)。回答中「常時下剤を使用している」と回答した患者が58%と最も多く, 「常時使用し, 下痢になったら使用を中止する」と回答した患者とあわせると60%であった。

服用している下剤の種類では, 「酸化マグネシウム」が22%と最も多く, 次いで「プルゼニド[®]」が17%であった。しかし, 自分の服用している薬剤名を知らない患者が30%も存在した (図11)。なお, 服用時の水の量については, 約60%の患者がコップ1杯以上の水で服用していた。

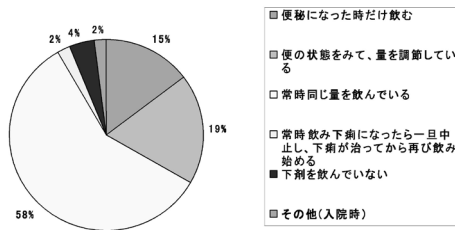


図10 下剤の使い方

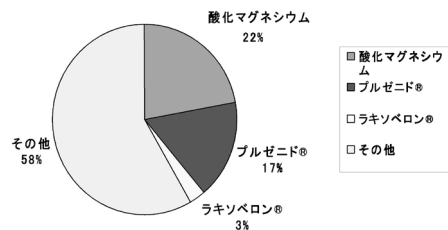


図11 下剤の種類 (複数回答可) n = 30

【考 察】

アンケート調査の実施にあたり、実施医療機関での倫理審査委員会への提出書類として「同意説明書」、「アンケート様式」等を提出したが、北陸大学に「臨床試験にかかる倫理審査委員会」が存在していないことから大学としてのアンケート実施に対する検討結果報告書を添付できなかった。しかし、薬学教育が6年制となり、今後職員及び学生が、臨床現場で研究を行うことが十分に想定されることから、附属病院・医院を持たない大学においても倫理審査委員会を早急に設置する必要がある。

アンケートの回答者から、さらに話を聞いた中では女性の場合は、もともと便秘気味という患者がいたのに対して、男性の患者では、そのほとんどが、他の疾患に付随した症状あるいは、他の疾患の治療薬による副作用としての便秘であった。

便通コントロールに関しては、便秘時の対応として、薬を用いるだけでなく、水分や果物の摂取量を増やしたり、便意を我慢しないなどセルフメディケーションを行っている患者が多くみられた。

今回、調査時に「夏場は下痢気味なので下剤は使用していない」という患者が散見された。今回の調査対象に高齢者が多かったことが原因かもしれないが、今後は季節間差を考慮し、年間を通じて調査を実施するなど、アンケート実施に当たっては、調査時期にも考慮する必要があることが示唆された。

一方、便秘時に薬剤を服用している患者において、自分が服用している薬剤名を把握していないケースや服用時の水分量が十分でないケースがそれぞれ30%以上存在していることなどから、便秘時には患者個々の基礎疾患、生活習慣に合わせた方策を選択し、指導することが必要であることが示唆された。

謝 辞

アンケートにご協力いただきました患者及び金沢医療センターの院外処方せん相談コーナー担当者各位に深謝いたします。

引用文献

- 1) 小田中みのり, 旭 満里子, 横川弘一, 宮本謙一, 薬学雑誌, 122 (1), 89-95 (2002)
- 2) 植木哲也, 田崎奈緒子, 吉田哲夫, 医療薬学, 33 (2), 119-124 (2007)